

慶応三年

(二月)

(正月) 元日

御祝等もなく、実にく常よりも猶淋しき事也。

(二月) 二日、三日

哥かるたなそ内々極ひそかにいたし候て遊ひ候也。

\*哥かるた(哥カルタ)

(二月) 四日

岡崎え帰り候。

(二月) 五日

朝、景信子と同道にて御殿え上り、父さまト三人連にて西加茂蓮月女え行、九条様より御頼のみの画讃頼みに行候処、蓮月画讃は出来ぬ事と分て断申候まゝ、西法寺呉山え蓮月案内仕られ候て画を見せ候処、呉山画所望いたし候まゝ、右画二枚遣し候。色々咄して帰り候。此時、伊勢藩楠原為治郎ト申人も蓮月方ニ居り、此人ト共に帰り候。舟岡山のほとりにて精進酒肴一杯催仕度して、二条え帰り寄、為治郎、二条城にて別れる。父さま帰殿致され、私、景信子ト岡崎え帰る、夕方也。

\*頼のみ(たのみ)

(二月) 六日

此日、画題物半切認ル。

(二月) 七日

此日も同断。雨中、夕方より石山様え参り、薄茶戴、色々おもしろき事也。此時、景信子迎ひに上られ候て、又々暫遊ふ。一更後に帰り候。

(二月八日、九日、日記ナシ)

(二月) 十日

帰殿いたし候。千世滝さま病氣追々あしく、甚困りく入候。廿日後

千世滝病氣あしき方二赴、面えうき来り、皆々驚く、蓮観院さまもひとく御あんし遊し、色々いしやの御相談も遊し、漸船引平介、田中泰蔵、近藤右京、石田信堂、皆々相談いたし候処、下血不苦、いまた出る方よきよし、先々安心いたし候。

\*うき来り(浮き来り) \*御あんし遊し(御案じ遊し) \*いしや(医者)

(二月十一日から廿六日、日記ナシ)

(二月) 廿七日

禁中様御葬送拝見、君様、よし姫様、成らせられ候。御供いたし候。東洞院え成らせられ候。暫御遊ひ遊し、永楽屋方にて御拝見遊し候。一更後に相濟、御帰り、少々雨降。東洞院、木津より七人客、皆々相留り候。翌日帰り候。吉井、信堂、廿九日帰り候。

(二月廿八日、廿九日、日記ナシ)

(二月)

(二月一日〜十日、日記ナシ)

二月十一日

千世滝事、追々病氣全快の赴に相成、実にくうれしく候。

岡崎御坊え父さまと参詣いたし候。伏田にて暫遊ふ。夕方、帰殿。

(二月十二日、十三日、日記ナシ)

(二月) 十四日

父さま帰坂致され候。

(二月十五日、日記ナシ)

(二月) 十六日

久々にて九条さまえ御病氣御見舞に上り候。此日、泉涌寺、鷹司殿勅使、副使三条西殿、御行列拝見いたし候。

(二月十七日〜廿三日、日記ナシ)

(二月) 廿四日

日柄よく候まゝ、殿様、宮原え成らせられ候。

(二月) 廿五日

早朝より東洞院え成らせられ候。此日、風早大夫様来られ候。

(二月) 廿六日

大雨中、早朝、殿様、東二え成らせられ候。左伝輪講御聞遊し、論語、孟子、講釈御聞遊し、七ツ時御帰殿あらせられ候。此夜、宮先生御出、一更後に御帰り遊し候。竹の子、此夜より相留られ候。

\*講釈(講釈)

(二月) 廿七日

竹の子、稽古に来られ候。昼後、参殿して、荷物持帰り候。此日、大坂え文出ス。

(二月) 廿八日

昼後、私、兵部子、民部子ト共に式部方え行、画讚相頼み候。いろく面白き咄し有。外に三条遠藤子、阿波藩ト来り候。短冊三枚到来候て、相帰り候。此道より大谷、清水え参詣して帰り候。式部女より画帖物相頼れ候。

(二月) 廿九日

風早太夫さまよりの小唐紙山水認、式部よりの画帖物山水認ル。昼後、御殿え参り候。栄、参殿して、松鶴の手本相頼み候。夕方帰り候。此夕、宮先、若先、御遊ひに御出遊し候。

(二月) 晦日 雨中。

松鶴手本認、絹地観音さま認ル。夜、宮先生御出にて三体詩講釈致され候。若先生、豹さまも御出也。

\*講釈(講釈)

(三月)

三月朔日

早朝、兵部子、民部、広吉三人連にて、父さま、母さま御帰り迎ひに伏見迄行候。此朝、式部女相頼候讚物持参いたし候。いろく面白き咄して帰り候。昼過、父母さま帰られ候。夜、宮先生御出遊し候。

(三月) 二日 雨中、昼後止、八ツ時又雨降。  
母さま、私、昼飯食して御殿え上り候。殿様御はしめ皆々さま、実にく始而の御見目に  
て御悦く遊し候、此夜、一宿。

(三月) 三日 雨。

朝、石山権之佐さま成らせられ候。御昼飯遊し候而御帰り也。此日、宮原竹の子、岩尾子、  
迎に遣し候へとも御断。夜、御難さまに而遊ふ。

(三月) 四日 雨。

終日遊ふ。

(三月) 五日 晴。

昼飯して、父母さま、私ト三人連にて、下加茂馬場桜満詣して、夫ヨリ吉田え参り、真如  
堂、黒谷、岡崎ふし田え一寸寄、若王子え行。何れも桜盛りにて一入く面白き事也。夫  
ヨリ南禅寺え参詣して、栗田、聖護院、智恩院ふらくと歩行いたし、酔月え寄、一飯し  
て、大谷、祇園え参り、夕方帰殿いたし候。此留主中、大坂木津六藤虎吉外に一人参殿いた  
し候。

\*ふし田(伏田)

(三月) 六日 晴。

朝、私、二条え帰り候。縫忠より頼みの白福連ののほり「絵」正一位綾熊大明神と認候。  
外に前田氏より頼みのかんはん御茶処ト認候。此七ツ時、母さま帰られ候。夕方、父さま  
帰られ候。

\*のほり(幟) \*かんはん(看板)

(三月) 七日 晴。

暁ヨリ母さま、民部、兵部連て、外に六藤寅吉モ共に帰坂致され候。父さま、夫より参殿  
致され候。五ツ時、伏田木公来られ候而薄茶出ス。九日頃ヨリ出坂して、十一日頃芸州出  
立のよし申居られ候。此日、打敷下函作スル。嵯峨ノ人、庭梅売に来、五拾疋ニテ求メル。  
昼後、宮原おきたさま、遊ひに来られ候。此日、先生嵐山行。私、誘れ候へとも相断候。  
夕方、先生、若先生、遊ひに来られ、薄茶出、暫して帰られ候。

(三月) 八日 晴。

打敷認にかゝる。夜、宮先生、若先生、千代女も来られ候。講訳聞。

\*講訳(講釈)

(三月) 九日 朝晴、五ツ時より大風。  
此日、民部子等帰京のつもり、不帰候。

(三月) 十日 晴。

昼後、参殿いたし候。七ツ時、兵、民、大坂より帰り候。私、御殿二而一宿。父さま、新宅にて宿。

(三月) 十一日

(コノ日、記事ナシ)

(三月) 十二日

短冊認ル。八ツ時後、備前七谷、宮先生ト共来、薄茶出、日暮帰り候。此時、宮原寿太郎来、暫して帰られ候。此時、兵、民、帰宅。

(三月) 十三日 晴。

昼後、参殿。殿様御書上ヶ候。夕方、堺佐野弥一郎夫婦来、共に連帰り一宿いたし候。夜三更頃出火、明かた消。

(三月) 十四日 朝より雨。

早朝、佐の、帰られ候。昼後早々、千代滝さま、小蝶、兵部子、民部連て、始て来られ候。終日遊ぶ。夕かた、おきたさま御出、早々帰られ候。夫ヨリ先生、若先生、豹さまと同道にて御出にて、四ツ時帰られ候。夫ヨリ一酒出、先生大珍談、実に／＼おとかいを解様也。夜八ツ時、帰られ候。

\*佐の(佐野) \*おとかい(頤)

(三月) 十五日 晴。

朝、式部女来、画頼れ候。暫して帰られ候。昼前、広吉迎ひに來、千代滝さま、民、兵、連て帰殿致され候。其跡、先生御出にて、加州藩小瀬定安來候よし申され、夫ヨリ私、湘雲子ト同道にて町奉行杉山え行、栄、輝女同道にて連て帰り候。小瀬來、輝女眼病いろ／＼訳を申され、暫居られ候。小瀬氏半切三枚、私画、式部、蓮月讚、頼くれ様願候。宮原詩会、時習館ニテ、竹子、両先生、山田永年、小島、村松、結城、宮原寿三郎、豹子ト九人也。日暮、相濟候。合作する。此日、寺田善治郎、保治郎來ル。

(三月) 十六日 晴。

早朝、式部女來。昨日画認頼まれ候人、今日は非枚方え帰らねは不相成候様申居り候故、

画取に参り候へども、いま出来不申。夫故帰られ候。又々式部点書して、枚方中島九右衛門自来、早速認願度よし申、夫故若松摺物下図認ル。梅林山水短冊所望にて遣ス。いろ／＼咄し致候処、津田尊光寺前川懇意にて、咄し合候て、大悦／＼して帰られ候。八ツ時、北村織部来、早速帰られ候。此後、父さま御出にて、又早々帰殿致され候。八ツ後より宮原先生、私、竹女ト木屋町平久方え招かれ候て行、酒肴有。此時、漸齋先生御出。山田酔宇、百山来、いろ／＼合作ス。一更後二帰り候。詩作。三更後二臥。

\*点書(添書)

(三月) 十七日 晴。

短冊十枚認ル。桑名行展観御書、殿様御出し遣し候、宮先生迄。昼後ヨリ宮先生ト私、竹の女ト中西耕石方へ行候処、玄関取次之人物、耕他行のよし申、帰らんとする処、耕石台所より呼止、面向他行のよし、一笑。酒肴、色々珍談。私、竹の女ト清水寺え詣して、中西方え帰る。此時、前田家内来、七ツ時退出。宮原御頼の合作物三枚、其場にて耕石認め候。此帰り懸、前田亀堂方へ行、暫して帰り、松尾方え寄、一酒一寸して帰り候。此時、一更也。

(三月) 十八日 雨。

連落梅短冊十枚認ル。此七ツ時、父さま御出にて、此夜、船にて出坂致され候。民部、宿。父さま、高瀬迄、広吉、伊三郎送り候。裏辻殿ヨリ半切二枚画、同二枚書、相頼みに候。夜三更頃出火、西大谷不残焼、二時過頃消ル。此時、詩作、読書。五更二臥。

(三月) 十九日

朝ヨリ左官来、座敷壁ぬり候。昼後、参殿いたし候。夫(ヨリ)岡崎ふし田へ行、暫遊ふ。

御坊へ行。桜花到来。伏田にていろ／＼草花物持帰り候。七ツ時也。御殿えも菖蒲の類あけ候。夫ヨリ広吉連て二条え帰り、草物種ル。広吉帰り候。夜二更二臥。

\*ふし田(伏田) \*あけ(上げ)

(三月) 廿日

朝六ツ後、大霰降。真に晴天、急に大風、大サ「絵」実にあふしき也。暫して止。此日、終日時雨の如也。連落シヤウキ二枚認。夕方、永年、東齋、漸齋先生来られ候て、早々帰られ候。

\*シヤウキ(鍾馗)

(三月) 廿一日

昼時、御殿え上り、昼飯戴、早速御廟え参詣する。帰り、殿様御書上、夕方、民部と帰り候。

(三月) 廿二日 晴。

永年子の画帖認。民部、兵部、男也、刑部、戸田、帰り懸寄られ候。昼時、帰られ候。八ツ時、北村、男也来。夕方迄居られ候。夕方、宮先生、おきたさま、六さま来られ候。又々兵子、弥さま、御出にて、此時、**講訳聞**、四ツ時帰られ候。四更迄読書。此日、**浦辻さま**の半切梅認ル。

\*講訳(講釈) \*浦辻さま(裏辻さま)

(三月) 廿三日 晴。

早朝、小瀬貞安来。輝女**眼病の義**二付、此日約束にて待請られ候へとも、輝女不来候故、又々帰られ候。**浦辻さま**よりの半切書、半切須磨の浦、甲、葉桜、右三枚、小瀬の頼にて認。九条さまの御礼金二百疋添て、蓮月方え画讚相頼候。昼時、輝女来、八ツ時過、杉山氏来、輝女連て室町四条下ル武川方え小瀬に逢に行れ候。此日、双林寺展観会、夫ゆへ得不行候。七ツ時、男也子来候。暫して大雷鳴大雨、実におそろしき事也。夕方止、又降、又止。夕方、宮若先生来られ候ていろく珍談、一更後に帰られ候。此夜、男也子一宿致され候。双林寺会、**勝鬼**出。殿様、全紙江山満花柳御出し遊し候、金廿五疋添。私も廿五疋添ル。是は、廿二日朝、私、宮先生迄持参いたし候。

\*眼病の義(眼病の儀) \*浦辻さま(裏辻さま) \*勝鬼(鍾馗)

(三月) 廿四日 晴。

朝、男也子帰り候。此時、半切一行物春光媚人如醉、梅画、高辻え持参致され候。又々連落草花類、詩讚して呉候様頼来り候。此昼前、宮原先生方ニテ孟子**講訳聞**まいらせ候。永年子画帖認ル。男也子、昼時来、民部と共に下辺遊ひに行候。七ツ時、帰宅致され候。夕方、参殿いたし候。夜、宮先生、若先生、竹の子連て来られ候て、三体詩**講訳聞**、日本外史読。

\*講訳(講釈) \*講訳(講釈)

(三月) 廿五日 晴。

昼後、参殿いたし候。此時、北村子、三尺巾堅物双幅応挙夏冬山水扱物、持参致され候。真妙也。私、夕方帰宅。夜、宮先生、若先生来られ候て、**講訳聞**、外史読。

\*講訳(講釈)

(三月) 廿六日 曇天、細雨復止。

連落菊秋草花認ル。左宮源助来。殿様御書、全紙江山満花柳、半切歓喜入佳展、茶煙永日香、三枚戴し候。夜、若先生、宮先生、御出にて**講訳聞**、外史読。此日、民部御殿ニて一宿。私独也。夜三更頃、表ニテ犬吠候故、私起て大声ニテ読書する。益甚しく吠声半時斗、

夫ヨリ方(々々)見廻り致し候。犬、南え鳴去り候。

\*講釈(講釈)

(三月) 廿七日

昼前、民部、男也、刑部、戸田ヨリ帰り懸来、是ヨリ蓮月方へ行候由、申来り候。此朝、兵部子来、六条へ行れ候。昼前、伏田静女、あさ女来。此処え父さま、津戸石田連て帰られ候。皆々え昼飯相出し候。兵部子帰られ候。良暫して伏田兩人帰られ候。広吉、御殿ヨリ来、父さま同道にて帰殿致され候。石田氏、下辺へ行かれ候。七ツ時、帰られ候。此前、民部帰り候。此日、打敷認ル。父さま咄しに、大坂異人六百人斗来、日々往来町々いたし候由、可憐可歎の次第也。此夜、石田一宿いたし候。

\*津戸(津堂) \*いたし(致し)

(三月) 廿八日 晴。

朝、兵部子、石田、大谷辺え案内いたし候と申て来り、兩人行れ候。昼時、帰られ候。此日、終(日)不認候。八ツ時より石田参殿いたし候て、御殿ニ而一宿。

(三月) 廿九日 晴。

昼後、石田来り候。此時、大坂太兵衛、源六、駒吉連て参殿いたし候。石田帰坂いたし候。太兵衛、駒吉も、八ツ後、帰坂いたし候。七ツ時より雨降。

(四月)

四月朔日 雨。

朝より参殿いたし候。此日、きく女の買物に行候由にて候へとも、雨中ニテ相見合せ候処、昼後晴来。父さま、千世滝さま、兵部、民部、私と藪の下へ行候処、空相くもり鳴雷、又は雨降候て、飾屋伊助方え寄候候処、おもひの外の馳走酒肴にて、跡、舞などはつみ、買物も相済候て、夕方二条え一寸寄られ候。私、民部、二条にて臥。父さま、千代滝さま、兵部子、帰殿致され候。此夜、若先生来られ候て、一更迄はなし。

\*寄候(候(衍)一)処 \*跡(後) \*はつみ(弾み)

(四月) 二日

打敷彩色ニかゝる。竹野女、先達而より病氣にて相休まれ、漸此日より稽古ニ来られ候。昼後、専徳寺役僧来、刀、茶碗の払物申し来り候。

(四月) 三日



朝、兵部子下辺え行、民部戸田え行。男也子、兵部の稽古着持参、一寸来られ候。此時、兵部子帰り、私と同道にて参殿いたし候。私事、蓮月方え行候つもりもの処、昼後雨中ニテ止ル。明日お客さまの御こしらへ御手伝いたし候。御殿ニ而一宿。  
\*こしらへ(拵へ)

(四月) 四日

朝よりこしらへニて大さハキ也。昼前、竹野子、岩尾子、来り候。八ツ時、万里小路常真院さま、秀丸さま、千世姫さま、なれせられ候。此日ハ殿様、良姫さま御延生日ニて一統御祝、日暮後、御帰りあらせられ候。宮、岩尾、七ツ時迎ひ来、帰られ候。竹の女一宿。  
\*こしらへ(拵へ) \*大さハキ(大騒ぎ) \*なれせられ(なれらせられ) \*御延生日(御誕生日)

(四月) 五日 晴。

昼後より男也子連て蓮月方え認物取ニ行候処、もはやきのふ御寺御所家来津田氏え相事伝いたし候由也。良暫咄して帰り、菓子到来。男也短冊五枚到来候。八ツ後ニ帰殿いたし候。七ツ時、長七連て帰り候。石山様より御頼みの御屏風持帰り候。竹の女御殿ニ而一宿。私、二条え帰り候処、津田氏、蓮月よりの哥持参いたし有之候。須田将監ヨリ家祝白雪糖一箱持来り候。天野実五郎も来、晒葛一箱到来。民部、参殿いたし候。三日私留主中、式部女来り、芝山殿ふ尽しの画半切頼来り候よし也。夜、弥さま御出、外史読、早々帰られ候。又読書。

\*事(言)

(四月) 六日 朝四ツ時より雨、昼時より晴。

朝、杉山栄来、此度無事して永之御暇ニ相成残念の赴申し来り、今朝申し渡し、七日江戸表え出立仰付られ、実にく可申様なく気の毒く千々々々存候。此日、父さま、二条蔵え出役致され、八ツ時帰られ候。父さまも杉山え行かれ、右の様子聞れ、とうぞ致し様なき事哉とせんとく心配致され候。宮先生御出にて、いろく杉山の相談致され候。此時、梅林来り候て、殿様御書戴し候。全紙二枚、夏雲多奇峰、言忠信行篤敬。杉山栄えも全紙二枚、半切一枚、夏雲、言忠信、江山満花柳戴し候。私、長七連て亀弥え行、絵具調ル。帰り候処、専徳寺役僧来、刀持参致され候。私、此日、半切式部女よりの画認ル。七ツ時、宮原え行、寿三郎八日江戸表え出立ニ付、連落シヤウ鬼、四季短冊雜五枚ト餞別いたし候。暫して帰り候。此日、御殿次不残、竹の女も連て、岩倉え茶摘也。明六ツ立。父さま、八ツ時過、帰殿致され候。

\*とうぞ(どうぞ) \*シヤウ鬼(鍾馗)

(四月) 七日

朝、宮先生御出にて、扇子二本相頼まれ候。梅竹認候。夫ヨリ小瀬画題物、山里ハの山水、鶴亀、半切三枚認ル。昼後、勝蔵子来、扇面書認めれ様相頼、早速認ル。連落勝鬼くれ様申、無抛遣し候。朝、平戸藩中来、書半切四枚相頼み候。勝蔵子帰り候。杉山栄、明八日江戸出立のよし申来、暇乞して帰り候。金五百足錢別遣し候。外に御堂上短冊、私画短冊十五枚斗遣し候。左官源助来、羊羹一棹くれ候。夜、宮先生御出、弥さま御出、外史読。寺町表具屋来、短冊百五十枚持参する。預り置。

\*勝鬼（鍾馗）

（四月） 八日

終日屏風認ル。

（四月） 九日

昨日七日、刑部子、岩倉より帰り、典膳子、私に一度来て呉候様押て頼候まゝ、此早朝、広吉連て岩倉へ行。典膳、少々ハ病氣よろしく候へとも、少々氣にいらぬ事有之、私え申候。昼飯食て帰殿いたし候。殿様御書上ケル。

\*昨日（一昨日）

（四月） 十日

早朝明六ツ時より岩倉茶摘行。千世滝さま、私、ゆき女、竹の女、兵部、民、広吉、伊三郎、八人連にて行、終日摘、日暮後、帰殿致し候。御殿ニ而一宿。木津唯専寺院主、お常さま連て参殿致され、典膳婚姻十一日のつもり、典膳病氣あしく候て延引ニ相成候、其書状出違ニ相成候。御殿ニ而一宿。

（四月） 十一日

此朝、私、帰宅。唯専寺、常女、父さま来られ候。酒肴。昼後、宮原先家内不残御出にて、夜三更頃二濟。父さま、兵部子帰殿致され、千世滝さま一宿。

（四月） 十二日

朝、唯専寺、十助連て下坂致され候。終日遊ぶ。昼後、殿様成らせられ、七ツ時、御帰殿あらせられ候。千代滝さま御供して帰殿致され候。此日朝、式部女来、画讚物持参致され、暫して帰られ候。

（四月） 十三日

屏風認ル。殿様成らせられ、御書上ル。七ツ時、御帰殿。此時、私御供いたし候。早速帰宅。

(四月) 十四日

殿様成らせられ、御書上ル。七ツ時、御帰殿。私事、七ツ後、参殿致候。一宿。

(四月) 十五日

夜引明、私、常吉、伊三郎連て、石山様御拝賀、御簾上御用仰付られ候。四ツ半御出門、御退室八ツ後、七ツ前也。中将さま御参りの跡にて席画する。殿様、御席書遊し候。公家さま方、目驚かす計也。御客さま、高野、六角、難波、岩野、園、沢主水、是斗也。御客さま御帰り三更過也。夫ヨリ御内御杯始り候。暫して私臥。御内相濟候処、五更也。

\*跡(後)

(四月) 十六日

朝、伊三郎迎ひに来、帰り懸、此日、岡崎御坊御門跡さま御成様子伺の為、伏田寄。無程御入の様子にて、暫伏田ニテ相見合。此時、伊三郎、常女呼に遣し候。昼時、新門様御入也。伏田ニテ昼飯して、御坊え参詣する。御勤始り候時、常女来。此跡、父さまも参詣致され、石山さまえ御札の帰り懸也。御勤御日中濟、又伏田え帰る。父さま、暫して帰られ候。私、常女、御帰り拜見して、七ツ時帰り候。御殿ニて一宿。常女、不言庵え帰り候。  
\*此跡(此後)

(四月) 十七日

朝、帰り候。殿様成らせられ候。御本濟せられ候て、早々御帰殿遊し候。此日、石山様、加茂御内見也。夫故殿様も加茂え成らせられ候。屏風認。夕方、宮先生講訳聞。兵さま、外史読。

\*講訳(講釈)

(四月) 十八日

朝、殿様成らせられ候。屏風認ル。昼後八ツ時、論語講訳、時習館にて宮先生致され候聞。夜、先生留主番してもらい候て、私、竹野子、つね女、六角堂え参詣する。帰り、三体詩講訳聞、又外史読。

\*講訳(講釈) \*講訳(講釈)

(四月) 十九日

朝、殿様成らせられ候。此日、御書御稽古。宮原より御頼みの絹地額面二枚御認遊し、静楽園完齊也。私事、平戸藩頼みの書半切五枚認ル。夜、外史、弥子、宮先生講訳聞。此日、鳩居堂来。暫先生も居られ候。

\*講訳(講釈)

(四月) 廿日

朝、殿様成らせられ候。御本御稽古済せられ候て、御帰殿あらせられ候。此日、伏田三郎子、芸州より帰られ候て来り候。此時、宮原先生、越後人連て来られ候て、殿様御書戴、帰り候。

(四月) 廿一日

昼時、私事、御殿え上り、千世滝さまト御廟え参詣して帰り懸、大坂屋え寄、調物いたし候。七ツ時、帰宅いたし候。夜、宮先生、若先生来られ候。講釈聞、外史不読候。此日、少大風、夜二更頃益大風。

\*講釈(講釈)

(四月) 廿二日 雨。

朝、殿様成らせられ候。私事、終日屏風認ル。小瀬貞安ヨリ画帖認ル。

(四月) 廿三日

朝、殿様成らせられ候。私、終日屏風認ル。朝、浪花井上金三郎、細辻亀太郎子来られ候。橘屋栄助、川勝、松屋太右衛門来。夜、宮先生御出、講釈聞。

\*講釈(講釈)

(四月) 廿四日

朝、殿様成らせられ候。私、終日屏風認ル。七ツ時、認上ル。

(四月) 廿五日

朝、殿様成らせられ候。私事、湘雲女連て細辻え行、暫して昼時帰り候。四ツ時、屏風石山様より取に来り候。渡す。七ツ時より殿様御供して参殿いたし候。一宿する。

(四月) 廿六日

朝、六ツ起して、葵祭御勅使拝見ニ成らせられ候御こしらへにかゝり候処、五ツ時御所御出門にて、殿様、よし姫さま、万里様え成らせられ候。私はこしらへ不出来、得御供不致、男也子ト同道にて、今出川迄拝見ニ行、帰殿して、暫して二条え帰り候。此時、暫雨降、昼後止。八ツ時より湘雲連て式部方え潤筆持参する。夫よりふし田え行、雨二逢、無扨一宿する。

\*こしらへ(拵へ) \*こしらへ(拵へ) \*ふし田(伏田)

(四月) 廿七日

朝六ツ時より帰り候。五ツ時、殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿あらせられ候。

(四月) 廿八日

此日、御殿より私より呼に來、早速參殿いたし候。又々常女呼に遣し候。昼時より清光院さまの七年忌にて、鹿か谷え施餓鬼勤に行。此道すから、処々見物して重蓮山安樂寺え参り、松虫鈴虫の塚えも行候処、

世の人を道引ためと鈴虫のふり出て(以下、記述ナシ)

\*私(より)(ママ) ~ \*鹿か谷(鹿ヶ谷) ~ \*重蓮山(住連山)

(四月) 廿九日

殿様成らせられ候。此日、宮原より御頼みののほり認ル。此日、帯一筋くける。七ツ時、殿様御帰殿あらせられ候。

\*のほり(幟)

(四月) 晦日

殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿。楚山先生より頼みの横物一枚、短冊認ル。千世滝さま、八ツ後來られ候。七ツ時、殿様御供して帰られ候。夜、宮先生、弥先生、御出。講訳聞。

\*講訳(講釈)

(五月)

五月朔日

半切、湘雲、花菖蒲認認、石榴花認。宮先生、詩讚致され候。私事、昼後參殿いたし一宿する。夕方より雨降、終夜降。此夜、津堂石田參殿いたし候。

\*認(認(衍))

(五月) 二日

朝、殿様御供して不言亭え帰り候。朝、石田來り候。昼後、青木晟治郎來、常太郎子入学頼みに來り候。裏辻さまよりの画讚物認ル。政所屋伊助よりの短冊認ル。

(五月) 三日

朝、殿様成らせられ候。此日、御書終日御認遊し候。此日、伊予人 (空白)、画帖二枚、扇面一枚、画セン紙合作物認遣ス。夕方、宮先生御出にて、講訳聞。

\*画セン紙(画牋紙) ~ \*講訳(講釈)

(五月) 四日

此日、園さまより短冊認ル。此日、庸女御殿せんたくに上り候。七ツ時、帰り候。私、此日、せんたく、縫物する。夕方より御殿へ行、一宿する。

\*せんたく(洗濯) \*せんたく(洗濯)

(五月) 五日

御するくゝと御祝も済せられ候。縫日遊ぶ。八ツ時、対州青晟治郎、藤右衛門連て参殿いたし候。暫して帰り候。

\*縫日(終日) \*青晟治郎(青木晟治郎)

(五月) 六日

此日、朝より九条様へ行、昼時帰殿いたし候。此日八ツ時後より、君様、寿様、よし姫様、成らせられ候。きく、ゆき、私、御供いたし候。御九献、御すもしなといたし、暫御遊ひ遊し候。夕方、御帰殿あらせられ候。私事も、またくゝ御殿え御供いたし、一宿する。此日、九条様、画を認に来てくれ様仰せられ候へとも、右の御客さまにて御断申上候て、明日と約束いたし候。

(五月) 七日

朝、殿様御供して帰り候。昼後八ツ時より重助連て九条様へ行候。席画する。夕方より御九献出。田中勇蔵といふいしやも居り候。奥通りの侍、外に芹田兩人、女中不残、皆々御九献戴候。席画大はつみ也。夜四ツ後二済、こなたにて一宿致候。此日、青木藤右衛門入門いたし候。

\*いしや(医者) \*大はつみ(大弾み)

(五月) 八日

朝、不言亭え帰り候。殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿。此日、家根瓦師、大工来、足場有之候て用心あしく候まゝ、父さま一宿いたされ候。

\*家根瓦師(屋根瓦師)

(五月) 九日

此日、辻氏え礼状出。木津母さまも金子入書状出。此日、殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿。此時、私、庸女連て参殿いたし一宿する。父さま、不言ニテ一宿。

(五月) 十日

雨中、殿様御休遊し候。昼前、兵部子、庸女ト共に帰り候。美濃山田兵庫来り、昼飯出ス。八ツ時帰り候。兵部子も帰殿いたし候。男也子、裏辻さまよりの潤筆金二百足持参いたし

候。父さま同道にて帰殿いたし候。

(五月) 十一日

朝、殿様成らせられ候。昼後早々、伏田おつたさま、おあさ女連て来られ候。一酒一肴出、八ツ時後帰られ候。あさ女滞留。夕、宮先生来られ候て、**講釈聞**。七ツ時、殿様御帰殿。藤右衛門御供して一宿する。

\*講釈(講釈)

(五月) 十二日

朝、殿様成らせられ候。私、打敷認ル。七ツ時、殿様御帰殿。藤右衛門、又御供して一宿。あさ女滞留。夕、宮先生来られ候て、**講釈聞**。

\*講釈(講釈)

(五月) 十三日

朝、殿様成らせられ候。私、打敷認ル。殿様、七ツ時御帰殿あらせられ候。

(五月) 十四日

此朝、殿様成らせられ候。私、朝より父さま同道にて榮玉堂え筆あつらへに行。此行かけ、飾屋え寄。酒肴出、暫して帰り候。昼後也。七ツ時、殿様御帰殿。此日、私留主中、式部女来、建仁寺行の約束尋に来り候。**伏田秀領**、あさ女迎ひに来られ候へとも不帰候。  
\*伏田秀領(伏田秀嶺)

(五月) 十五日

昼後早々、父さま**同道**、重助連て建仁寺え行。靈洞尋当り候へとも、式部未来、暫休足する。漸来。此処座敷、真に新緑清々しく、庭の蓮池など有。此時、雨降又は止して、実によき庭也。狩野画いろく見而、夫より席画相**はつみ**、式部も画哥致し候。一酒出ル。終日遊ぶ。七ツ時済て、夕方御殿え帰り候。一宿。

\*同道(同道) \*はつみ(弾み)

(五月) 十六日

朝ヨリ殿様、幡枝、岩倉辺え成らせられ候。私、朝、帰り候。あさ女、竹野子にすゝめられ候て、無抛、岡崎えあさ女送りて行候。御坊法談有、聴聞する。夕方蚤狩に行、三更迄遊ぶ。一宿する。

(五月) 十七日

早朝、竹の子ト同道にて帰り候。雨中也。殿様成らせられ候。私、打敷認ル。夕方、永年

来、**のう連**合作頼候。早々帰られ候。此時、殿様御帰殿。一更頃、宮先生、若先生、泰蔵子来、**のうれん**、地袋の合作、みなくゝに願候。

\*のう連(暖簾) \*のうれん(暖簾)

(五月) 十八日

大風雨。殿様御休。私、此日、打敷認ル。

(五月) 十九日

殿様御休。此日、男也子御書戴に來り候。同人御暇に相成候よし申候也。宮原取次扇子二本認ル。此潤筆五拾疋添。小川扇子、常之助扇子認ル。八ツ時、父さま御出。夕方より、私、常女參殿いたし、一宿する。

(五月) 廿日

此日、御姫さまかた、**獅ヶ谷**え成らせられ候御つもの処、殿様御所より御用召にて参内あらせられ候。夫ゆへ御止ニ相成候。此日、終日雨降、又止、又降。八ツ時より次の人斗、御廟え參詣いたし候。此日、石山様成らせられ候。殿様卜御同道にて御参内あらせられ候。昼時也。御還御八ツ半也。此夜、御通夜いたし候。

\*獅ヶ谷(鹿ヶ谷)

(五月) 廿一日

昼時より、寿さま、良姫さま御供、千代瀧、きく、雪、父さま、兵部、十助、長七也、**獅ヶ谷****施餓餽**ニ成らせられ候。七ツ時過ニ御帰殿。私、常女、早々二条え帰り候。

\*獅ヶ谷(鹿ヶ谷) \*施餓餽(施餓鬼)

(五月) 廿二日

朝、青木雅信來り候。暫して帰り候。此日、殿様御休。四ツ時、父さま、兵部子、典膳御出、大津え行れ候。此日、宮若さま、画帖二冊持參、金廿五疋潤筆添。此日、楚山先生より画頼みの文來。私、打敷認ル。

(五月) 廿三日

殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿。私、此日、宮取次画帖二冊認ル。又打敷認ル。弥さま御出、外史読。又、宮原先生、日根野金五郎子連て來られ候て合作相頼候。

(五月) 廿四日

殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿。此日、南禅寺行御書御認遊し候。此内大工來、画不認候。



(五月) 廿五日

殿様、朝五ツ時より南禅寺誠首座様関東え成らせられ候二付、御暇乞に成らせられ候。昼時、千代滝さまト私ト呼に來、右二人、下部広吉、十助連て南禅寺真淨院へ行。殿様、御書沢山御認遊し候。私事も書画認候。一酒一肴後夕飯して、夕方御帰殿。私、御殿ニテ一宿。

(五月) 廿六日

朝、朝、帰宅。殿様、宮様、御法事ニテ御仏參あらせられ候て、私方えは不成させられ候。此日七ツ時前より常女連て買物に行、夕方帰候。夜、読書、詩作。四更二臥。

\*不成させられ(不成させられ)

(五月) 廿七日

朝、殿様成らせられ候。此日、御書御認遊し候。八ツ時後ニ御帰殿あらせられ候。此日、大坂井上氏、細辻氏方え來られ候て、使來、半切三百枚送られ候。金三郎子より短冊十枚相頼來り候。私、七ツ時より細辻氏へ行候処、井上氏留主ニテ得不逢、帰り候。

(五月) 廿八日

早朝、井上氏來られ候。のうれん合作相頼み候。良暫咄して帰られ候。朝、弥さま御出、外史読。昼時、御殿より常女呼に來、行れ候。私、打しき認ル。八ツ半時、千世滝さま、常女、広吉來、男也子も來り候。則、宮原氏の書相渡し候。右四人連にて東六条え參詣いたし候。七ツ時後、帰殿いたし候。父さま、私、民部、日暮て二条え帰り候。

\*のうれん(暖簾)

(五月) 廿九日

朝、殿様成らせられ候。常女、四ツ時、御殿より帰り、大坂行のこしらへして、重助連て大坂え下られ候。重助、伏見迄送り、昼後帰り候。此日、伏田使來候て、おあさ子留主中來てもらい度よし申遣し候。

\*こしらへ(拵へ)

(六月)

六月朔日

朝、四条芝居行。父さま、先行れ候。千代滝さま、私、小川の娘迎ひに來居、重助連て五ツ時より行。終日打樂しみ候。七ツ時、果ル。夫ヨリ松の尾ニテ夕飯して帰り候。途ニテ

父さま、千代滝さまと打別れ、私二条え帰り候。

(六月) 二日

朝、殿様成らせられ候。此朝、典膳、重介連て大坂え下り候。病氣見てもらいに帰り候也。殿様、七ツ時御帰殿候也。此日昼後、伏田木公、あさ女連て来られ候。木公さま、早速帰られ候。あさ女滞留。

(六月) 三日

朝、殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿。

(六月) 四日

朝、殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿。此日、式部女来、半切二枚自面讃相頼居り候。此日、上町仏壇屋、仏壇誂ル。

(六月) 五日

朝、殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿。私、打敷落製いたし候。此日、御殿え典膳より文来り候。

(六月) 六日

殿様同断。私、政所屋よりの短冊認ル。夜、弥さま御出、外史誂。此日、大坂え返事出。此日昼時、大坂木津源、六、新、駒吉、外に四人連て青物一件二付来り候。昼飯して帰り候。

(六月) 七日

殿様同断。此日、短冊十二枚認ル。

(六月) 八日

殿様同断。此日、九条殿御裏ヨリ君様御床上ケの御祝ニテ私招かれ、七ツ時より参殿いたし候。いろく御馳走大さわき也。又合作有。私事、相とまり候様仰せられ候へとも、向ひの人来、四ツ時に御殿迄帰り一宿する。此夜、不言亭、宮原先生留主番御出下され候。此日、岡崎伏田より人来り候。此日、大坂典膳方ヨリ文来ル。

\*大さわき(大騒ぎ)

(六月) 九日

朝、私、不言え帰り候。殿様少々おむさくさまニテ御休也。八ツ時後、伏田おつたさま、おあさ女迎ひに来られ候。あさ女此日迄滞留。弥さま御出、外史誂。宮先生御出、講訳聞。

夜五ツ時後より雷鳴大風雨、それはくおそろしき事也。夜八ツ時、漸さすみ候也。

\*講釈(講釈) \*さすみ(さすみ)

(六月) 十日

殿様成らせられ候。私、短冊九枚認ル。田中俊蔵子ヨリ画頼みに来り候。則、金二百疋潤筆持参。

(六月) 十一日

殿様御同断。

(六月) 十二日

殿様御同断。此昼前、常女、ひて女、太兵衛連て帰られ候。此時、平方人画認みに来り候。半切二枚認遣ス。跡、画帖物置いて帰り候。此早朝、男也子御書頼みに来り候。則、十四枚短冊渡ス。此日、殿様御帰殿後、宅掃事する。常女、所勞にて臥。此夕方、典膳子、大坂より帰られ候。

\*平方(枚方) \*認みに(頼みに) \*掃事(掃除)

(六月) 十三日

宅掃事済て、私事、ひて女御殿え連て上り候。七ツ時、帰宅。此朝、式部来。絹地豎物三幅対雪月花画讚、私、花分認ル。式部月分、香蘭雪ノ分。

\*掃事(掃除)

(六月) 十四日

朝、よし姫様成らせられ候。昼時、寿様成らせられ候。此夜御一宿、八ツ時後御輿御渡り也。夕方より皆々八幡さまえ参り候。月清光也。

(六月) 十五日

此日、絹地桜花讚物認ル。寿さま、よし姫さま、今御一宿。

(六月) 十六日

昼前、皆様御帰殿あらせられ候。私、八ツ時より、ひて女連て参殿いたし候。此夕、菊女月見御祝也。月清光、此夜一宿。

(六月) 十七日

朝、私帰宅いたし候。短冊認ル。

(六月) 十八日

ふし田しつ女よりの扇子画讃物認ル。また短冊認ル。七ツ時、宮原先生御出、講訳聞。夜、詩作、四更迄。

\*ふし田(伏田) \*講訳(講釈)

(六月) 十九日

殿様、明六ツ時成らせられ、御本御稽古あらせられ候て御帰殿。私、短冊十枚認ル。此日、土用の入、朝晴て、昼後雨、又雷鳴。

(六月) 廿日

殿様、早朝成らせられ候。御稽古済せられ候て御帰殿。此日、井上氏え短冊、又は暑中見舞の文さし出し候。

(六月) 廿一日

朝早く殿様成らせられ候。御稽古済せられ候て御帰殿。私、昼時参殿いたし、夕かた帰宅。  
\*夕かた(夕方)

(六月) 廿二日

此日、殿様御休。七ツ起、石山様方々え暑中ニ殿様成らせられ、四ツ前、私方え成らせられ候。此日七ツ時、私、常女、湘雲女連て二条河原え、しゝめ放に行候。此行懸、押小路にて細矢氏に逢。夕方、帰宅。此日、楚先生よりの画帖認ル。

(六月) 廿三日

朝晴天、八ツ時雨降、又止、七ツ時大雷雨、至日暮て暫して止。此日、田中春蔵子よりの詩選堂像認ル。八ツ時、宮若さま御出、外史読。

\*田中春蔵子(田中俊蔵子) \*詩選堂像(詩仙堂像)

(六月) 廿四日

此日、式部来り、ハセヲ布のうれん頼み来り候。此前、絹地月画讃物潤筆金百疋待参、落手。七ツ時ヨリ宮先生、湘雲子、私三人連ニテ四条え納涼二行。此時、鳩居堂え寄、頼岐峰先生も居られ候て、暫咄して四条河原え行、夕飯いたし候。此日、腹痛にて大困りく入候。早々帰り、此帰り懸秋田え寄、又暫咄して帰り候。早々常女ニ安腹してもらい、漸いたみ止。

\*ハセヲ布(芭蕉布) \*のうれん(暖簾) \*待参(持参) \*安腹(按腹)

(六月) 廿五日

式部より頼みの画讃いたし候。月二雁、桜折枝、二枚、ハセヲ布のうれん。此日八ツ時後、天下茶屋寺田氏来、又御殿え上り候。

\*ハセヲ布(芭蕉布) \*のうれん(暖簾)

(六月) 廿六日

早朝より法帖物花類十二枚写候。昼後、岡崎ふし田より人来、殿様え御染筆願くれ候様申来り候。芸州の人ヨリ相頼み候也。絹地横物也。此日、七ツ時前ヨリ大雨大雷、夕方止。夫ヨリ私参殿いたし候。御殿にて一宿。

\*ふし田(伏田)

(六月) 廿七日

早朝、殿様暑中御見舞御出門、五ツ時御還御。夫ヨリ御書上ヶ絹地御認あらせられ候。私、夕方帰宅いたし候。此日、秋村子来り候也。

(六月) 廿八日

私、早朝大谷え参詣のつもり、朝寐して不参いたし候。父さま、九ツ時御出被成候。昼飯して帰られ候。七ツ時、兵部子来、父さま火急大坂え下され候様ニテ、私連て行と仰せられ候。こしらへする様申来り候。夫ヨリ早々こしらへ致し、昼、仕度相済候処、典膳より相止ニ致ス様申参り、又々止ニ相成候。父さま、伏見迄行れ候内也。

\*下さられ(下させられ) \*こしらへ(拵へ) \*こしらへ(拵へ)

(六月) 廿九日

田中俊蔵よりの詩選堂落製いたし候。対州竹中半之助扇子一本認候。又短冊認。

\*詩選堂(詩仙堂)

(七月)

七月朔日

朝より竹の女連て鳩居堂え行、夫より角ノ蔵の堀え亀放に行、夫ヨリ岡崎え行、伏田ニテ昼飯呼れ、御坊の蓮満開也。暫茶室ニテ蓮見する。夫ヨリ帰り、昼飯早々お薦さまト五郎子ト四人連にて若王子え行、二、三の滝え行、実涼サ妙也。八ツ時迄遊ぶ。夫ヨリ帰り迄筒井屋の庭見二行、又小森え寄、暫して伏田え帰り、一弦琴四季曲教えてもらい候て後、**そ**うめんなぞ呼て、七ツ時不言え帰られて、此留主中、式部、浅野大進、渡辺大夫さま御出也。**専立**寺尼さま御出にて、殿様え御菓子上られ候故、私、夕方より右菓子持参して御殿え上り候て一宿。

\*そうめん(素麺) \*呼て(呼れて) \*専立寺(泉竜寺)

(七月) 二日

昼前ヨリ九条さまえ暑中ニ上り候。暫して帰殿いたし、昼飯して、千世滝さま、兵部さま、私、長七連て不言亭え来。八ツ時ヨリ常女も連て古橋願徳寺え行候処、酒肴出候て、七ツ時迄遊ぶ。本願寺え参詣して、夕方不言え帰り候。千世滝さま、兵部子、長七帰殿いたし候。此夜五更頃、賊ニテ大サワキ也。

\*大サワキ(大騒ぎ)

(七月) 三日

私、少々暑当りニテ臥。江州主水子来、昼飯して帰り候。私、夕方泉流寺え行、暫遊ひて帰り候。

\*泉流寺(泉竜寺)

(七月) 四日

早朝ヨリ扇面認ル。秋村子来り候。暫して帰られ候。此日、岩倉市女来候て一宿。夕方、若先生も御出にて一酒相催し候。

(七月) 五日

早朝より昼迄画認ル。

(七月) 六日

早朝より昼迄揮画、夕方専徳寺え行。竹の女連候也。暫シテ帰り候。

(七月) 七日

早(朝)、政所屋ヲヤシ来、暫シテ帰り候。昼後、刑部子、御殿ヨリ私呼に來、早々参殿いたし候。遊ぶ。夜一宿。此日夕方、重介、大坂ヨリ帰り候。

\*ヲヤシ(親爺)

(七月) 八日

朝、十介、又大坂え行候。夕方帰宅。

(七月) 九日

昼迄揮画、此朝、専竜寺え御殿ヨリ岐府灯提下され候。使常女行れ候。宮岡先生来られ候テ、稽古する。

\*専竜寺(泉竜寺)

\*岐府灯提(岐阜提灯)

(七月) 十日

私、暑当りニテ臥。此日、会津藩木村理左衛門来、連落画頼、帰り候、常女、宮原おきた女ト清水寺え参詣いたし候。一更頃に帰られ候。宮岡先生御出ニテ稽古する。

(七月) 十一日

七ツ時、前田清六来、田中俊蔵使、画取に來り候。絹地小切物墨梅、私より遣し候。夕方ヨリ参殿いたし候。一宿。

(七月) 十二日

早朝ヨリ殿様、一乗寺山中ヨリの御認物、半切二行物六枚御染筆遊し候。此四ツ時、父さま大坂ヨリ帰殿致され候。此夕方、父様、千世滝さま、典膳、私、小蝶、十介連て寺町え調物行、一更ニ帰殿、又一宿。

此日、楚山先生え金二百五十疋入書状相出し候。

(七月) 十三日

早朝帰宅。大坂辻氏ヨリ便有。加州落雁、キン子来。

\*キン子 (金海鼠)

(七月) 十四日

諸私方致し候。七ツ時ヨリ参殿いたし候。夜、おとりいたし候。

\*おとり (躍り)

(七月) 十五日

御祝も御するくと濟せられ候。

(七月) 十六日

七ツ時ヨリ千世滝さま、私、きく女、兵部子、北村子、重助連て加茂川原え精靈さま流しに行候。帰り大文字見て、夫ヨリおとりいたし候。此日昼後、九条さまえ御礼に行、暫して帰り候。此時さつと夕立しまいらせ候。

\*おとり (躍り)

(七月) 十七日

此日も滞留。朝ヨリ父さま、千世滝さま、私、小てふ、四人連て、北野山本中務方え淨留り聞二行候。天神さま社内ニテ昼飯いたし候。七ツ時、相濟、白むして呼れ候。此帰り、一寸梅林え寄、夕方帰殿いたし候。

\*浄留り(浄瑠璃) \*白むし(白蒸し)

(七月) 十八日

朝、殿様御書御したゝめ遊し候ニ付、又滞留。

(七月) 十九日

朝、殿様本願寺行御書御認遊し候。私、昼時不言亭え帰り候。

(七月) 廿日

朝ヨリ認物、藪之内ヨリの画帖一枚、連落菊認、民部扇子一本。夜、読書、二更ニ臥。此日、飾屋伊介ヨリ輪灯来ル。

(七月) 廿一日

朝ヨリ昼迄絹地豎物菊認上ル。辻氏の需也。七ツ時前ヨリ常女連て御廟え詣して、参殿致し、夕飯戴て帰り候、日暮也。此時、宮先生来、講訳聞。結城筑後守ヨリ杉戸相頼居られ候。

\*講訳(講釈)

(七月) 廿二日

朝ヨリ絹地豎物秋和山水認上ル。辻栄助方ヨリ需也。殿様御稽古始ニテ、早朝成らせられ候。御稽古済せられ、早々御帰殿。私事、九条様御稽古始ニテ朝ヨリ参殿。昼飯戴候而、帰り候。此日、岡崎伏田ヨリ使来ル。常女、御殿え地藏様の御備物持参いたし候。

(七月) 廿三日

早朝、殿様成らせられ候。御稽古済せられ、早々御帰殿。私事、九条様御稽古始ニテ朝ヨリ参殿。昼飯戴候而、帰り候。此日、岡崎伏田ヨリ使来ル。常女、御殿え地藏様の御備物持参いたし候。  
\*御備物(御供物)

(七月) 廿四日

朝六ツ前、起ル。六ツ後、殿様成らせられ候。御稽古済せられ候。早々御帰殿。私、竹の女、常女連え岡崎ふし田え行。常女、早々不言亭え引帰り候。七ツ時ヨリ私、おあさ女、竹の女ト三人連ニテ御殿迄帰り候。地藏さま御祭りニテ賑々しく、おとりなと相はつみ候。夜三更迄遊ぶ。御殿ニテみなく滞留。

\*連え(連て)

\*ふし田(伏田)

\*おとり(躍り)

\*はつみ(弾み)

(七月) 廿五日



終日遊ぶ。此八ツ時、天下茶屋善三郎来り候。夕方、私、あさ女、竹の女連て二条え帰り候。此時、民部、兵部子も同道也。此二人、私等送り候テ、早々帰殿いたし候。

(七月) 廿六日

早朝、殿様成らせられ候。「」同断。私、結城ヨリの杉戸瀑布認ル。此朝、伏田秀嶺、あさ女迎ひに来られ候。昼飯出し候。夫ヨリ二人連ニテ帰られ候。宮若さま御出、又北村子来、早々帰られ候。私、昼後、画帖二冊梅長春認ル。昼前、民部、兵部子、孟子講訳聞ニ来り候。昼飯して帰り候。此日、天下茶善三郎、帰坂のよし也。

\*講訳(講釈) \*天下茶(天下茶屋)

(七月) 廿七日

早朝、殿様成らせられ候。御稽古済て御帰殿。私、此日終日写し物いたし候。八ツ時、会津藩木村理左衛門、外二一人連て来り候。暫して帰り候。

(七月) 廿八日

朝七ツ時起ル。六ツ後、明福寺朝時ニ参詣する。常女ト同道也。帰り、身こしらへして、九条殿え上り候。昼迄御稽古して、昼飯呼れ候て、二条え帰り候。作図する。

\*こしらへ(拵へ)

(七月) 廿九日

早朝ヨリ全紙二枚ツキ衝立認ル。八ツ後、落製スル。此朝、伊三郎子来り候。夕方、宮若さま来られ候。読書する。又先生御出。四ツ時迄遊ぶ。夕暮後、川勝、太刀持来り候。此日、衝立画、玉堂春暖也。

(八月)

八月朔日

朝ヨリ参殿いたし候。終日遊ぶ。此朝四ツ時、石山中将様成らせられ候。殿様御同道にて御所え御参りあらせられ候。此夕、今出川辺え蓮観様、良姫様、おとり見に成らせられ、御供いたし候。園殿家来の方え成らせられ候。一更ニ御帰りあらせられ候。

\*おとり(躍り)

(八月) 二日

殿様、御書御染筆あらせられ候。夜、父さま、兵部子、善治郎子、千世滝さま、私、ゆき、ひて、小蝶、十助連て、おとり見に今出川え行候。一更後に帰殿也。

\*おとり(躍り)

(八月) 三日

此日も殿様御書御染筆ニテ、私滞留。

(八月) 四日

早朝、殿様宮原え成らせられ候。私も、朝、二条え帰り候。此日、辻栄助ヨリの瀑布山水認ル。此八ツ時後、横田と申人筑前ノ人来、書画見セル。又席画頼み、半切二枚、扇子一本認遣し候。七ツ時、帰り候。此時、父さまも来て居られ候。横田帰り候て、父さまも帰殿致され候。此夜、宮両先生御出、稽古する。二更、帰られ候。

(八月) 五日

早朝、殿様成らせられ候。前日同断。辻栄助ノ需ニテ横物永観堂の山水認ル。昼時ヨリ専徳寺え九、十字ノ御札持参いたし候。夫ヨリ御池明福寺え御坐二逢。父さまえ参り居られ候て、夫ヨリ鳩居堂え軸返しに行、主人留主中ニて早々帰り、誓願寺金魚屋ニて暫休、夫(ヨリ)四条糸屋え行、父さまと別れて帰り候、七ツ時也。絹地堅物蓮認ル。夕、宮若来られ候て稽古する。此夜、花火見事也。御亭ニテ暫見渡し候。先十五本上り候。二更ニ帰られ候。

\*父さまえ(父さまも)

(八月) 六日

朝、殿様前二同。八ツ時、父さま、民部、小川、北村来、私と共に高倉の寺え法輪閣ニ行候。みなく不言菴え帰られ候。暫してみなく帰殿致され候。此朝、栄玉堂、筆持参いたし候。私、蓮落製する。

(八月) 七日

朝、殿様前日二同。私、写し物いたし候。八ツ前時、父さま、千代滝さま、民部、兵部、小川来、私も共に御池明福寺え参詣いたし、又高倉え参詣いたし候。不言え帰られ候。此時、対州青木家内、常三郎連て来られ、暫して帰られ候。私、父さま等ト共に寺町え行、調物して、参殿いたし、一宿する。

(八月) 八日

朝より九条殿え上り御稽古上ル。昼飯呼れ候て、二条え帰り候。此日も高倉え参詣のつもり、横田氏来候て不行レ、大残念也。宮原若さま、夕方より御出也。殿様御休。

(八月) 九日

朝、殿様成らせられ、昼飯遊し候て御帰殿也。私、写し物いたし候。八ツ時前ヨリ高倉え参詣いたし、父さまも参り居られ候。二条ニテ相別れ候也。

(八月) 十日

朝、殿様同断。私、写し物いたし候。八ツ時、高倉え参詣いたし候。父さまも参り居られ候。此座果テ、二条え父さまも来られ候て、夕飯して帰殿いたされ候。夜、宮若さま御出也。

(八月) 十一日

朝、殿様同断。私、御供して御殿え帰り、御書上ル。八ツ時、父さま同道にテ高倉え参詣いたし候。七ツ時、果ル。此門前ニテ父さまト別れ候。夜、宮若さま御出ニテ稽古する。

(八月) 十二日

朝、殿様同断。私、写し物、終日いたし候。

(八月) 十三日

早朝ヨリ九条殿えお稽古に上り候。此途中ニテ父さまに逢。父さま、大坂え此時下られ候。善治郎、重介連て也。此義ニテ殿様御稽古御休也。私、昼飯して九条殿下ル。又御殿え上り、暫して帰り候。宅掃事して御馳走のこしらへいたし候。此日、殿様、加茂え宮原招かれ候約定ながら、父さまニワカニ下坂ニテ御止に相成、夫ゆへ不言菴ニテ招候。夕方ヨリ宮原老若先生、駒子、湘雲子来られ候て、酒肴相出、五ツ半迄遊ひ候也。此日、市女来られ候。

\*義(儀) \*掃事(掃除) \*こしらへ(拵へ) \*ニワカ(俄)

(八月) 十四日

朝ヨリ写し物する。昼後、筑前横田来、画半切二枚相頼置候。

(八月) 十五日

朝ヨリ参殿いたし候て、殿様え御書上ル。夜、おとり見に行候也。此夜、一宿する。

\*おとり(躍り)

(八月) 十六日

昼前、帰宅いたし候。夜、宮若さま御出、稽古する。此日、大雨降。

(八月) 十七日

朝、九条殿え上り御稽古上ル。昼飯して、姉御殿え上り候。一宿する。

(八月) 十八日

御神事也。終日遊ぶ。夕方後、雨降。

(八月) 十九日

朝、帰宅、写し物いたし候。夜、稽古する。

(八月) 廿日

此日昼後ヨリ常女ト共に鳩居堂え画帖返しに行、又外面帖かりて帰り候。是ヨリ松木町新  
覚寺え法輪聞に行候処、夜分法談に相成、空しく帰り候処、此門前ニテ兵部子に出合、夫  
ヨリ東大谷え参詣いたし候て帰り候。此日、將軍、知恩院詣ニテにきくしく候。民部子、  
守家候。夜、宮若さま御出ニテ稽古する。

\*にきくしく(賑々しく)

(八月) 廿一日

朝ヨリ写し物いたし候。昼時、参殿いたし、御廟え参詣いたし、暫して帰り候。北村来り  
候。

(八月) 廿二日

朝ヨリ三幅対写し候。此日、横田氏来り候。昼時、小川子来、又父さま来られ候。此時、  
又横田氏も来り候。みなく帰られ候時七ツ時也。夜、宮若さま御出也。  
青木晟治郎来り候。

(八月) 廿三日

朝ヨリ九条殿え上り御稽古いたし候。昼飯して帰り候。夫ヨリ雪中山水連落ニ認候。此日、  
辻氏え見舞状、菓子出し候。終日雨。

(八月) 廿四日 晴。

朝、横田よりの横物亀認。昼後、岡崎え行、七ツ時に帰り候。此時、君様成らせられ候。  
父さま、兵部子、千世滝さま、ひて女、御供也。夕方、皆々帰殿致され候。君さま御泊り  
遊し候。夜、若さま御出也。

(八月) 廿五日 晴。

朝、殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿也。此夜も君さま御滞留也。

(八月) 廿六日 終日雨。

朝、殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿也。此日、御仏壇出来ニテ持参り候。私、半切秋山水認ル。雨中ニテ君様御滞留。楚山ヨリ金二百疋入文来り候。

(八月) 廿七日

殿様、御所え御参りニテ御休也。朝、兵部子、刑部子、きく女、ひて女、御迎ひに来、君様御帰殿あらせられ候。雨中也。絹地虎の木薄彩色ニテ認ル。半切富貴天香認ル。此日、木津え便りいたし候。楚山えも文出。

(八月) 廿八日

朝、私、九条さまえ御稽古に上り候。昼飯して帰り懸、御殿え上り候。暫して典膳と同道にて不言え帰り候。雨中也。此日、詩かるた認ル。典膳一宿。夜、宮若さま御出也。此日、辻氏ヨリ文来り候。

\*詩かるた(詩カルタ)

(八月) 廿九日

朝、殿様成らせられ候。大雨中ニテ御一宿遊し候。典膳、民部も相留り候。此夕方、ひて女御殿より帰り、心得違ひの義ニテ一宿いたし候。

\*義(儀)

(八月) 晦日 朝晴天、四ツ時ヨリ雨降、曇、又雷鳴、又雨止。

殿様、八ツ時御帰殿也。七ツ時前、父さま御出、井筒屋夫婦来、酒肴出。又千世滝さま御出。夕方前、井筒屋帰られ候。夫ヨリ父さま、千世滝さまも帰殿致され候。此日大風也。

(九月)

九月朔日

横物豎物横田氏索、認ル。昼後八ツ時ヨリ常女連て東六条え参詣致し、少々時刻早く、又西六条え参詣いたし候。前田え寄候処、留守ニテ早々帰り、東本願寺お八ツの御経に逢て、帰り懸、寺町え廻り帰り候、夕方也。ひて、留主番いたし居り候。典膳子、此日朝、帰殿いたし候。

(九月) 二日

朝、殿様成らせられ候。昼後より父さまと私、寺町辺え調物に行、八ツ時後に帰り、殿様、八ツ後御帰殿あらせられ候。

(九月) 三日

朝、九条殿(え)参殿いたし、御稽古上ル。昼飯して帰り候。此夜、九条殿より使来り候。  
白輪子帛紗画頼まれ候。此日も殿様成らせられ候。

\*白輪子(白綸子)

(九月) 四日

朝、殿様成らせられ候。私、朝より帛紗認ル。此日、私参殿いたし候。夕方、帰宅。

(九月) 五日

此日ヨリ私大坂行のつもり、雨中ニテ止メニ相成。此日、常女連て寺町辺え調物に行。

(九月) 六日

早朝ヨリ出立、私、民部、常女、重介也。朝霧深。此日、ひて女御殿え帰し候。典膳、守家いたし候。四ツ時伏見え着。天晴ル。重介早々帰り候。早昼飯して今井船に乗。船中面白く、御室末寺松寿院、外に堺御坊僧いろく咄し、七ツ時、八軒家着。夫ヨリ、いつ徳迄行、いつ徳より又人こしらへ、荷物持す。木津え入、雨中也。夕方着也。民部引返し、いつ徳ヨリ乗船のつもりニテ井迄行候処、船出切、又々井徳ニて一宿いたし候。

\*井(ママ) \*こしらへ(拵へ)

(九月) 七日

此早朝ヨリ民部上船いたし候。大雨中、帰殿四ツ時也。朝ヨリこしらへして常女、金井塚え行れ候。此夜船にて常女帰京致され候。私、雨中ニテ宅ニ居ル。

\*こしらへ(拵へ)

(九月) 八日

昼時ヨリ唯専寺ヨリ呼に来り、私行候。御膳呼れル。

\*ヨリ(ママ)

(九月) 九日 晴天。

朝ヨリ太兵衛連て北え行、井上氏え行、昼飯して、暫久々のはなしして、夫ヨリ辻氏え行候処、後室所勞、久の女少々よろしき様子也。夫ヨリ中之島豊島え行、いろく咄しいたし候。夫ヨリ又辻氏え行、夕飯呼れ候て、帰り懸、梶木町木津え寄、早々帰り候。日暮後、木津え帰り候。

\*はなし(咄)

(九月) 十日

此日、帰京のつもり、雨中にて滞留。

(九月) 十一日

此日、帰京のつもりいたし候処、八ツ時、井筒屋なつ女来、無理無たいに連れて帰り、此夜、一宿する。

\*無理無たい(無理無体)

(九月) 十二日

朝七ツ起して中之芝居へ行。前芸、色競秋の七草、切、播州皿屋敷也。のふへ子も来られ候。半時二果ル。私、のふへ子ト同道ニテ又木津え帰り候。

\*半時(飯時)

(九月) 十三日

八ツ時ヨリ出立、本町山勘船に乗、桜之宮辺ヨリ雨小降也。夜更二月清光也。

(九月) 十四日

朝六ツ時前着。夜明て伏見出立いたし候。四ツ時前、二条え帰り、早々御殿え上り候。私一宿、常女、二条え帰り候。典膳帰殿いたし候。

(九月) 十五日

朝ヨリ御殿みなくさま、岩倉神事ニ成らせられ候。御留主、寿部院さま、私、ゆき女、紅葉ト也。表、寺田氏一人也。一更ニ父さま、兵部子、千代滝さま、ひて女、下部二人帰り候。此日も私一宿。

(九月) 十六日

朝、帰宅いたし候。昼後、千世滝さま相談ニ付、常女使に参殿いたし、千世滝さまト同道して帰り候。夕方、帰殿致され候。

(九月) 十七日

昼後、父さま来られ候て、東大谷え参詣いたし、帰り、鳩居堂えより、書画二帖かりて帰り候。帰殿いたし、私一宿する。此日、木津ヨリ文来、常女、秀、下ケて戴度由申来り候。

(九月) 十八日

朝、帰宅いたし候。昼後、九条殿え上り候処、御風邪ニテ早速帰り候。

(九月) 十九日

此日、千世滝さまヨリ文来、早々参殿いたし候。暫して宅え帰る。此時、父さまも来り候。夕方、帰られ候。此夜、宮若さま来られ候て、**はなし**致され候。  
宮原紹介、**画セン紙**四枚合作物認ル。

\*はなし(咄) \*画セン紙(画牋紙)

(九月) 廿日

昼時、吉井信堂来。此時、寺田善之進来、大坂え下り懸也。常女も同道にて大坂え下られ候。八ツ時、信堂参殿いたし候。此日、全紙山水認ル。此夜、宮若さま御出にて、**はなし**致され、実にく面白き事也。

\*はなし(咄)

(九月) 廿一日

朝、御殿より呼に来、参殿いたし候。昼後より父さま、千代滝さま、兵部子、信堂子、私、寅吉六人連て御室え参詣いたし候。此行かけ、山本中務え寄、小天の**浄瑠り**二段聞候て、夫ヨリ八十八ヶ所え参詣いたし候。実に艷景、妙也。山の上にて暫一酒一肴催、**半時頃**帰殿致し、私一宿。

\*浄瑠り(浄瑠璃) \*半時(飯時)

(九月) 廿二日

朝、宅え帰り候。絹地秋山水認ル。昼後、信堂子来り候。跡より千世滝さま、ゆき女来り候。日暮後、帰られ候。信堂一宿いたし候。此夜、宮若さま来られ候。四ツ時頃帰られ候。

(九月) 廿三日

此朝、殿様成らせられ候。民部、宮原え入塾いたし候。朝五ツ時、信堂帰り候。殿様御書御認にて、終日画不認候也。

(九月) 廿四日

朝、殿様成らせられ候。昼後、私九条殿え上、御稽古上て、夕飯して帰り候。夜、若先生来られ候て外史読。八ツ時迄**詩かるた**認ル。

\*詩かるた(詩カルタ)

(九月) 廿五日

朝、殿様成らせられ候。八ツ時、御帰殿也。亀弥よりの絹地画帖、短冊、村松画帖認。八ツ時より岡崎ふし田え行、七ツ時に帰宅いたし候。**江州水主子**来、一宿致され候。夜、読書、**詩かるた**認、二更二臥。



\*江州水主(江州水主) \*ふし田(伏田) \*詩かるた(詩カルタ)

(九月) 廿六日

朝、殿様成らせられ、八ツ時、御帰殿也。五ツ半、水主子帰られ候。私、此日、殿様御書上ル。七ツ時、横田来ル。夜、若さま御出、外史読。此時、北村夫婦、外に男一人、三人連ニて来、早々帰られ候。宮若さま、一更ニ帰られ候て、私、認物する。二更後に臥。此日、大坂辻氏より文来。

\*水主(水主)

(九月) 廿七日

朝、殿様成らせられ、八ツ時、御帰殿也。私、絹地菊認ル。半切三枚書認ル。夜五更迄読書、認物。

(九月) 廿八日

殿様御休日也。御殿、美濃人(空白)願候事。私。昼後早々九条殿え御稽古に上り、夕飯して帰り候。夜、読書、詩作、三更迄。

(九月) 廿九日

殿様御休也。私、終日コテ／＼とくらし候。夜、詩作、読書、三更二臥。

(十月)

十月朔日

此日、写し物いたし候。夕方、私、湘雲女史と同道して三国へ行候。宮先生、一足早く行か候。此時、秋田、永年、春塘、清江、清雅堂居られ候。席画いたし候。酒肴一酔、民部、此時帰られ候。一更半に帰り候。此時、春子、豹子、守家候。此日、殿様高尾え成らせられ、表一統御供也。私、詩作する。二更後二臥。此日、寺田氏大坂より帰り候。

(十月) 二日

横田氏のたにさく画と哥ト十枚認候。此朝、三国若来、書画帖、外ニ絹地小切三枚頼候。七ツ時、父さま来られ候。宮先生も来られ候。暫して帰られ候。此日、九字十字名号出来、専徳寺役増持参いたし候。夜四更迄詩作、書写し候。此日、岡崎ふし田よりかほ二ツ到来する。

\*たにさく(短冊) \*専徳寺役増(専徳寺役僧) \*ふし田(伏田)

(十月) 三日

昼後、父さま来られ候。北村子も同道也。此時、宮原氏来られ候。暫居られ候。父さま、六角迄行れ候。右、私も同道にて調物する。二条吉野屋にて本調ル。寺町にて父さま二別る。父さま岡崎え行れ候。私、宅え帰り候。北村子も来られ候て、夕飯出す。早々帰られ候。夜、詩作、三更二臥。

(十月) 四日

御所よりの小紙櫛ゲ、殿の紹介、寒菊、亀二枚、九条殿よりのふく紗秋山水認ル。夜、詩作、二更二臥。

\*櫛ゲ(櫛笥) \*ふく紗(帛紗)

(十月) 五日

朝、殿様成らせられ候。朝、大和源兵衛来、早々帰り候。父さま、四ツ時来られ候。昼時より九条殿え御稽古に上り候。夕飯して、日暮二帰宅いたし候。夜、宮先生来られ候て、外史読、後詩作、縫物する。五更二臥。

(十月) 六日

明六ツ後、寺田氏、寅吉連て来、昨日大坂母さまヨリ文来、今朝伏見着の様にて、伏見迄迎ひに参られ候。夫二付き、民部誘に來られ候。私、三国の書画帖認ル。昼八ツ時、母さま、太兵衛連、外迎ひの人々も共に帰られ候。父さま、此時来られ候。青木雅信、問屋町大竹来り候。千世滝さまも来られ候て、夕方、母さまと御同道にて参殿致され候。夜四更二臥。

(十月) 七日

終日写し物いたし候。夜、宵寐して、三更より起ル。詩作、写し物。

(十月) 八日

朝、殿様成らせられ候。昼時、御殿より母さま帰られ候。私、昼飯後、九条殿え行、御稽古上、夕飯して、姉御殿え上り一宿する。

(十月) 九日

朝、帰宅、殿様も成らせられ候。終日御書御認遊し候。此日、私、竹、御所結城より誘れ、片山能え行候処、右御認物二付、得不行。私事、夜読書、三更迄。

(十月) 十日

朝、殿成らせられ候。此日、御書御認遊し候。宵寐する。又三更より起ル。詩作。此日、

母さま、殿様御帰殿の節參殿致され候て、不帰候。

(十月) 十一日

朝、殿様成らせられ候て、七ツ時前に御帰殿也。此昼後、母さま帰られ候。昼後、掃事いたし候。夜、御邊仏報恩講のこしらへにて、四更二臥。典膳、刑部相とまり候。此日、江州主水子来り候。

\*掃事(掃除) \*こしらへ(拵へ)

(十月) 十二日

朝、殿様成らせられ候。八ツ時後、御帰殿也。昼後、専徳寺役増同道にて参詣致され候。八ツ時後に相濟候。主水子も参り居られ候。菊女手伝に來り候。私、夜縫物いたし候。夕方、兵部子来り候て、御初夜、父母さま、私相つとめ候。後、一服手前いたし候。夫より皆々帰殿致され候。

\*専徳寺役増(専徳寺役僧)

(十月) 十三日

朝ヨリいろ／＼馳走のこしらへいたし候。昼後、殿様成らせられ候。八ツ時、専徳寺役増(僧)同道にて参詣いたされ候。法事相勤候。勝蔵子も来り候。菊女、千代滝さまも御出。夕かた、父さまはしめ殿様御帰殿、御供典膳、民部、刑部、菊女也。夕方ヨリ兵部、善之進、紅葉来り候。一更後に千代滝さまも同道にて、皆々帰殿致され候。

\*こしらへ(拵へ) \*専徳寺役増(専徳寺役僧)

(十月) 十四日

昼時より私、九条さまえ御稽古に上り候。夕飯して帰り、姉御殿え上り一宿する。夜半ヨリ腹痛。

(十月) 十五日

此日、終日痛不止。此日、御殿御倉つけ御祝也。七ツ時ヨリ不言え帰り候。臥、夜通し腹痛。

(十月) 十六日

朝方より少々いたみ止。終日臥。

(十月) 十七日

此日、早昼して、父さま、母さま、私三人連て岡崎永観堂え行。紅葉して真に如錦。暫茶など飲候て、景色なかめ、又若王寺え行、弁当食して暫遊ふ。夫ヨリ獅々か谷え行、施か

き勤濟、七ツ時、真如堂へ行。紅葉。早く弁当して、夕方御殿え帰り一宿。民部、守家。  
\*獅々か谷(鹿か谷) \*施かき(施餓鬼)

(十月) 十八日

朝、二条え帰り候。昼後、九条殿え御稽古に上り候。夕飯して帰り候。

(十月) 十九日

此朝、結城筑後守来。宮原若先生病氣ニ付ひとくあんしられ、夫ニ付いろく相談いたし  
度由申来り、又是ニ付、吉田泰藏さまも来られ候て、先々私方え出養生卜相定り候。世間  
騒々しき風聞斗也。私、参殿いたし、一更前、母さま呼に來、私、兵部子、民部子、寅吉  
四人連にて、二条え母さま呼に行。宅、宮原塾の人番頭、泰順也。

\*あんし(案じ)

(十月) 廿日

朝、母さま帰られ候。昼前、私帰り候、母さま、又参殿致され一宿。

(十月) 廿一日

昼後、私参殿いたし、母さま同道にて御廟え参詣いたし候。早々私帰り候。

(十月) 廿二日

終日作図いたし候。

(十月) 廿三日

九条殿御断。写し物いたし候。此夜ヨリ若先生来られ候。吉田さま御出、一更ニ帰られ候。

(十月) 廿四日

対山曲水図写し候。此日も吉田氏来られ候。結城も来り候。

(十月) 廿五日

写し物いたし候。吉田、村松来り候。父さまも一寸来られ候。夜二更後迄認物する。

(十月) 廿六日

朝、御殿より呼に参り、参殿いたし候。殿様御書御認遊し候。夕かた、二条え帰り候。此  
日、典膳、岩倉ヨリ帰り、二条え来り候。私参殿の跡也。

\*夕かた(夕方) \*跡(後)

(十月) 廿七日

宮若先生、此廿三日、私方え出養生ニ御出遊し、此夜せきひとく、夜寐かたきほとせき甚しく、其翌日より日々にせき少なく相成、此日に到てよほとよろしく相見へ、咄しなども常の体也。私、此日、絹地玉堂春暖相認候。

\*せき(咳) \*寐かたき(寐難き) \*せき(咳) \*せき(咳)

(十月) 廿八日

弥さま、此日もよろしく候。私、此昼後より九条殿え上り、絹地彩色ぬり立にかゝる。夕飯して二条え帰り候。此日、私留主中も弥さま気分よろしく候て、横物山水画認められ候。此廿日頃より世間諸神々の御札御臨降のうハさなから、此日に至て益はけしく相成、京師天地くつかへす程の町々のおとり見事成事也。

\*うハさ(噂) \*くつかへす(覆す) \*おとり(踊り)

(十月) 廿九日

此昼後ヨリ九条殿え上り、玉堂春暖認ル。夕飯して帰り候。此夜、御殿え帰り一宿する。

(十月) 晦日

御殿より昼飯して九条殿え上り、玉堂春暖彩色落製する。夕飯して、不言え帰り候。弥さま気分相替らすよろしく候へとも、せき少々出候様子也。

\*せき(咳)

(十一月)

十一月朔日

此日四ツ時ヨリ吉田さま御出、いろ／＼おもしろ咄なそして、八ツ時後迄居られ候。村松さまも又御出也。私、七ツ時より老先生、竹の女、六子、下女と五人連にて祇園さまえ参詣いたし候。一寸寺町鳩居堂え寄、又木屋町平久え寄、此道歩みかたきほとの人々おとり也。花の家え行、夕飯して帰り候。夕暮也。一寸住吉屋え寄、半時頃帰り候。若先生もおとりに行たき様子にて、今晚はおもひ切て二条辺迄出たくと申居られ候へとも、此寒さ故、と申て相とめ候事也。私方ノ門前表裏ともおとりにて夫は／＼中々賑々しき事也。

\*おとり(踊り) \*半時(飯時) \*おとり(踊り) \*おとり(踊り)

(十一月) 二日

此日、山田嘉三郎、以西京阿弥陀寺、此度御殿非常御立退場所ニ願ひ度よし申来、御聞濟有之。依之、此日、同寺一寸下見かてらに朝四ツ時より行約束にて、早朝私呼に來、参殿

いたし候。父さま、私、北村、山田嘉三郎四人連也。此行かけ、山田え誘に寄、同道いたし候。昼前に阿弥陀寺へ行、主寺此前西加茂晩年和尚の方ニテ逢し人也。いろ／＼咄しいたし候処、高井田ソタチにて、長野吉井至テ懇意、皆々知る人也。昼飯出る。夫ヨリ茶菓子にて終日遊ぶ。私、門札認ル。七ツ時退坐。夫ヨリ北野さまえ参詣いたし候。坊え寄、夕飯呼れる。いろ／＼咄しなとして半時頃退坐。此帰り道、おとり大賑々しく、大てい大かた仏神御臨降也。一更前に帰殿いたし候。夫ヨリ私、二条え帰たさなから、人もなく候て、無抛御殿ニテ一宿いたし候。

\*主寺(住持) \*ソタチ(育子) \*半時(飯時) \*おとり(踊り)

(十一月) 三日

朝、民部参殿いたし、漸齋子病氣昨夜ヨリ変来り、もはや六ツヶ敷よし申来、ひつくり驚、早々二条えかけ付候。病人何分たんもつれ、赤キアハノ様な物斗出、終に正九ツ時往生致され候。真に何と申様もなき事にて、暫泣臥、真に言て帰らぬ事ながら、実におしき／＼／＼人也。此時、きた女作病にて大さハキ也。昨二日夜は、あやにく私参殿いたし留主中、竹の女も不来、母さま一人也。此日八ツ時、吉田さま御出、碁三石も打たれ、いろ／＼咄しも常同様也。七ツ時、新宮見舞ハレ、此様子なれば髪なそ結てもよろしきと申され候也。先々何の様子もなく、新宮も帰られ候。一更頃迄民部と碁など打たれ、いろ／＼おとりのはなし致され、此時、駒子も居られ候。民部、駒子は、夫ヨリ塾え帰り候。若先生雪隠え行れ、ひとくツ、なそふな様子ニ打見へ、母さま、セナカにても相さすり候哉と申居られ候へは、遠慮致され候。先々よろしくと申され、老先生呼ひに居てくれ様申され、早速母さま呼に行れ、早々老先生、きた女、駒子も来られ、病人よほどあしく相見、早々塾の人々新宮えかけ付、小生来、又新宮来、大さハきいたし候事也。此夜、私留主中ニテ実に残念到極也。

此日、殿様成らせられ候。御殿御一統さま大驚、早々殿さま成らせられ候。此日は人々来、大サワキ也。夜四ツ後、吉田、瀬介、私、三人斗ニテ入 (空白) 也。夫ヨリ先ニ宮原えつれ帰られ候。私、通夜ニ行候。此夜、きた女病氣にて私方ニテ一宿いたし候。

\*たん(痰) \*アハ(泡) \*おしき(惜しき) \*大さハキ(大騒ぎ) \*おとり(躍り) \*ツ、なそふな(術無そふな) \*セナカ(背中) \*大さハキ(大騒ぎ) \*到極(至極) \*大サワキ(大騒ぎ)

(十一月) 四日

此日も何となく心ほう然として、終日くらし候。きた女、此日内え漸帰られ候。

\*ほう然(呆然)

(十一月) 五日

朝、若先生双林寺え送られ候。双林寺より葬送也、八ツ時。此時、皆々人々寺え行れ、私

玄関番いたし候。此日七ツ時、御殿え北野天満宮さま御降臨にて呼に來り、父さま、民部、葬送済而入湯して、早帰殿致され候。

此日、大坂玉専寺、井筒屋徳治郎來、昼飯して帰られ候。

(十一月) 六日

私宅相清よめ、昼後より参殿いたし、御殿大おとり也。昼夜同断。みなく姿替ておもしろき事也。園殿え皆々行候。

\*おとり(躍り)

(十一月) 七日

此日も同断。兵部、民部、北村、寺田、北野さま参、おとりに行候。蓮さまえ千本ゑん磨堂御札降られ候て、御殿にて同相祭りいたし候。

\*おとり(躍り) \*ゑん磨堂(閻魔堂)

(十一月) 八日

此日も同断。私、昼飯後より九条殿え上り、稽古いたし、夕かた帰殿也。

(十一月) 九日

此日も御殿同断。此日、一寸宅え帰り候。御殿侍、私方ニテ躍衣裳付、下辺え行れ候。半時帰られ候。母さまも同道参殿致され候。私一人守宅候。此夜、竹の女來り候。

\*半時(飯時)

(十一月) 十日

此日、御殿より私呼に來、八ツ時参殿いたし候。七ツ時より父さま、典、北、千代、花、菊、道にて山兵に逢、寅吉八人連ニテ下辺えおとり見ニ行候。帰り、御殿躍。

\*おとり(躍り)

(十一月) 十一日

早昼より北野様え御参詣、殿様、よし姫様、御次、父様、典膳、民部、兵部、寺田、北村、刑部、三郎、井上、浅野、女中、千世滝さま、私、菊、下部三人也。鳥居坊ニテ御休、皆々御千度いたし候。七ツ時、御帰殿也。此時、井上方え一寸御立寄あらせられ候。御帰り後、御座敷ニテ大をとり也。

\*おとり(躍り)

(十一月) 十二日

此日昼後より、父さま、典膳、表の人々、千本ゑん磨堂え参られ候。帰り道、中川番所前

ニテ、典膳、八幡宮の矢をひろい、持帰り候。又御祭りあらせられ候。此夜も私御殿ニテ  
臥。

\*ゑん磨堂(閻魔堂)

(十一月) 十三日

此日昼後より九条殿え上り、稽古いたし候。夕飯呼れ候て帰り候。

(十一月) 十四日

此朝より御殿表の人々北芝居え帰られ候。昼後、北村子呼に來られ候て、私行候。夕方濟、  
二条え帰る。此日、宮原より私呼に來、行候処、典膳病氣の義二付先生ひとくあんしられ、  
公義イシ十津川ニ一度見せくれ様仰せられ、吉田初藏え先生より相頼まれ候へは、十津川  
都合よろしきよし也。夫ヨリ吉田え申遣され、早々初藏子來候。

\*〔帰(ママ)〕られ \*義(儀) \*あんし(案じ) \*公義(公儀) \*イシ(医師)

(十一月) 十五日

此夕方、宮原より呼に來、行候処、漸齋先生の二七日の退夜ニテ、一寸をた巻呼れ候。先  
生いろく御咄し有、一更頃に帰り候。

\*をた巻(小田巻)

(十一月) 十六日

此朝、吉田、十津川え行れ候処、因州え行れ候て、留主中のよし申來り候。

(十一月) 十七日

終日画認ル。

(十一月) 十八日

此朝、典膳と私同道にて村松え行、一寸典膳シンサツして、暫して帰り懸鳩居堂え寄、画  
返し、夫より姉御殿え寄、昼後より九条殿え上り、御稽古上ル。夕飯呼れ候て、姉御殿え  
上り候処、七ツ時太神宮御降臨、又々御祭り、をとりあらせられ候。

\*シンサツ(診察) \*をとり(躍り)

(十一月) 十九日

御祭りにて候へとも、光格天皇様の御日柄にて、内々おとりあらせられ候。此夜も私一宿。

\*おとり(躍り)

(十一月) 廿日



朝、私二条え帰り候。画認ル。此夜、殿様、父さま、千世滝さま、民部、兵部子供にて来られ候。此日、武蔵組千五百人家台ニテはやし、北野さまえ参り、右のをとり見に成らせられ候て、御寄遊し候。

\*はやし(囃) \*おとり(躍り)

(十一月) 廿一日

終日画認ル。此夜、兵部子来候て、芝居行明日ニ相成候由申来り、夫ヨリ兵部、刑部、私三人連にて参殿いたし候。夫ヨリ御弁当のこしらへして、三更後に行かれ候。私、御留主番いたし候。

\*こしらへ(拵へ)

(十一月) 廿二日

朝ヨリ殿様少々御首のまはり御あしく、心配いたし候。皆々夕方後に帰られ候。

(十一月) 廿三日

昼後ヨリ九条殿え上り、御稽古上候。夕飯呼れ候て、姉御殿え帰り一宿する。

此日、宮原帛紗白ヌメ蓮認ル。湘雲菩提樹認られ候。

\*白ヌメ(白統) \*菩提樹(菩提樹)

(十一月) 廿四日

屏風牡丹認ル。七ツ時、寿様御出也。此時より御弁当こしらへいたし、一更ニ父さま、兵部子、寺田子来。一更ニ後に、寿さま、母、私、メ六人連にて四条南芝居へ行。典膳、二条守家。

\*こしらへ(拵へ) \*一更(二(ママ))後に

(十一月) 廿五日

朝、典膳来り候。一更半ニ済、御殿え帰り候。此日、兵部子、母さま病氣ニ付、国え出立致され候。

(十一月) 廿六日

朝、母さま、典膳、私二条え帰り候。昼飯。殿様成らせられ候。宮原え御稽古に成らせられ候。七ツ時、御帰殿也。

(十一月) 廿七日

此日、全紙杉山水杜若認ル。昼飯。殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿也。母さま六条え参詣いたし候。日暮後、帰られ候。夜、詩作。

(十一月) 廿八日

此日、九条殿扇面十五枚認ル。此日、父さま御出、典膳と共に六条え行れ候。八ツ時、津堂石田来り候、夕かた、父さま帰殿致され候。石田も同道也。夕方迄宮原先生御出也。夜、詩作いたし候。

(十一月) 廿九日

朝より全紙瀑布柳堤山水認ル。八ツ時より参殿いたし候。此時、北村、井上来、同道にて姉御殿え上り候。此日、殿様、九条さまえ成らせられ候。此夕かた、民部、宮原先生と同道にて住吉屋え行れ候。一宿。私、此夜、読書する。

(十一月) 三十日

朝より全紙寒林茅屋山水認ル。夜四更二臥。詩作。

(十二月)

十二月朔日

朝ヨリ時雨山水認ル。昼時、父さま来られ候。此時、寺田善之進来。此日、大坂え下り候いと聞乞いたし、早速伏見え出候。私、父さまト同道にて四条辺え行、七ツ時帰り、夫ヨリ父さまト共に参殿いたし、一宿する。

\*いと聞(暇)

(十二月) 二日

朝、帰宅スル。夫ヨリ雪中山水、葉牡丹、山茶花認ル。夕方ヨリ宮原え行候。若先生月忌退夜ニテ呼れる。一更ニ帰り候。此夕方、吉田泰蔵子来、若先生存命中上短拵られ朋友に合作相頼置れ候。右上短持来り候。此夜、扇子認ル。

(十二月) 三日

朝、上短認ル。昼時より九条殿え上り、御稽古いたし、七ツ時帰り候。此日、殿様成らせられ、七ツ時御帰殿也。夜、少々腹痛にて安腹してもらい、臥。

\*安腹(按腹)

(十二月) 四日

朝、殿様成らせられ候。私、扇面三十枚認上ル。昼後、殿様御書御認遊し候。此日、三国来、頼みの山水四枚相渡し候。外に画三枚頼置れ候。此日、三日出の文、辻氏より御殿え

着致し、父さま持参致され候処、お久のさま死去のよし承り大驚く、扱々思ひ寄らぬ事と泣臥候。此夜、辻行文認ル。四更迄詩作スル。

(十二月) 五日

朝、殿様成らせられ候。私、全紙菊、秋草、二枚認ル。殿様、七ツ時御帰殿也。此日、大坂辻行文出ス。夜二更二臥。

(十二月) 六日

朝ヨリ屏風画落歎スル。昼後ヨリ岡崎ふし田へ行、暫して七ツ時に帰り候。夜、詩作、四更二臥。

\*落歎(落款) \*ふし田(伏田)

(十二月) 七日

三国ヨリ頼みの米点山水二枚、阿弥陀寺よりの半切梅林山水認ル。夜、読書、五更二臥。

(十二月) 八日

昼時ヨリ宮原先生、父さま、私、民部、湘雲子ト同道にて、対山方え民部入門致させ候。色々席画、或三弦、十三弦、**コ弓**、舞、**大はつみ**。此時、大又秋芳も居られ候。一更二帰り候。父さま、民子、寺町ヨリ別れる。夫ヨリ三国え寄、又一酒催、暫して宅え帰り候。此時、二条川原出火。二更二臥。

\*コ弓(胡弓) \*大はつみ(大弾み)

(十二月) 九日

此日、九条殿え稽古日に候へとも、昼九ツ時ヨリ大変起り表騒々敷、御所六門閉候様子聞、私、早速姉御殿えかけ付候処、六門ハ不閉候へとも、御門警衛厳重、堺町御門、**薩かため**、見物の人々如山也。私事、清和御門ヨリ入参殿いたし候処、大変の趣意相分り、長州五卿方々御帰洛被免、是迄の悪役人方々、撰家、伝奏、儀奏参内被止、差しひかへ被仰付、御所御門不入、扱々今に到而**正儀**相立時節ニ相成、躍上りて大悦く候也。此よし、母さまニ**申度さ**、早々二条え帰り、母さまえ相告候処、母さま又早々姉御殿え参上致され候。暫して宅え帰られ候て、夫ヨリ又私と同道にて姉御殿え参上いたし候。夜、通夜いたし候。表御門、薩大勢警衛いたし候。

\*かため(固め) \*正儀(正義) \*申度さ(申たさ)

(十二月) 十日

御所御門会藩の**かため**引払候。徳、会、桑、事起し候哉と、夫計心配いたし候。京師の町々**大こんさつ**、畳衝具迄も倉え入、或は田舎え預ヶ逃行候人々斗也。御所五藩の**かため**かた

くして大丈夫に候へとも、徳、会、**乱ほう**恐れ候也。此夜も通夜いたし候。  
\*かため(固め) \*大こんさつ(大混雑) \*かため(固め) \*乱ほう(乱暴)

(十二月) 十一日

此日、君様、三条様より御帰り遊し候。追々長藩人数相登り候。此日、王天下ニ相成候。伝奏、儀奏廢シ、更参与相出来候。万里小路殿、大原殿、橋本、岩井、(空白)五方也。一乗院里坊ニテ**かり**候参与役所也。  
\*かり(借り)

(十二月) 十二日

此日、君様、岩倉え成らせられ候。此日、私、宅え帰り候。私方の大ていの本類、長棹、御殿の御蔵え相詰候。夫ヨリ私参殿いたし候。夜、通夜いたし候。徳、会、桑、大坂え引  
払候。

(十二月) 十三日

早朝、石山権之佐様成らせられ候。色々御咄し承り悦無極。此日、**詩かるた**致し二更二臥。此夜、石さま御泊り也。此日ヨリ表御門薩**かため**引払候。六門余尽ク解兵致し、六門ハ是迄通り也。南門、「」台所門、朔平門、更警衛相置レ候。

\*詩かるた(詩カルタ) \*かため(固め)

(十二月) 十四日

朝、石山様、御所え御参り遊し候。此日、廻文、町奉行亀山、青山、膳所、市中見廻り加藤遠江守、加藤能登守、小出平戸、亀井隠岐守也。

(十二月) 十五日

もはや京師も静謐ニ相成、私も二条え帰り候之処、雨中ニテ止。

(十二月) 十六日

朝、石山中将様成らせられ候。暫して御帰り也。私、母さま、二条え帰り候。此日、三國え米点山水持せ遣し候。夜、宮原より頼みの襖下図作画、題録認ル。又読書する。四更ニ臥。

(十二月) 十七日

輝女の法帖認ル。此七ツ時、父さま御出也。夕方、帰られ候。母さま、昼後より清水、大谷え参られ候て、七ツ時帰られ候。此夕方、千世滝さま、兵部さま、菊女来、すもし出ス。一更後ニ帰られ候。夫より読書する。

(十二月) 十八日

昼時より九条殿行。此行かけ、姉御殿え上り、漸齋さまの石卑の手本持参いたし候。九御殿御稽古済て、夕飯して、姉御殿え帰り候。一宿する。

\*石卑(石碑)

(十二月) 十九日

朝、帰宅する。此時、飛脚寺田より文持参、早々披見いたし候処、当月十五日夜、善之進、弟幸治郎同道にて大坂より帰り懸、途中ニテ狼藉者四、五人かゝり、手きす (空白)

り、いろく療治いたし候へとも不相叶、二人共死去いたし候文面、見るよりひつくり大驚、如何なるいんねん事かは知らねども、かゝるさい難ニ逢れ候哉と、しはし正体なくいたり候。夫より母さま、早々御殿え文持参致され候。暫して帰られ候。此夕方、岩倉市女来、一宿いたし候。此日、絹地竜認二かゝる。

\*いんねん(因縁) \*さい難(災難)

(十二月) 廿日

朝より竜認上ル。此時、北村子来り候。母さま御殿え上られ候て、昼前帰られ候。北村、昼飯食て帰られ候。宮原の下図認ル。夜、書認ル。三更二臥。

(十二月) 廿一日

朝ヨリ絹地竜持て姉小路様え参殿いたし候。此日、殿様、漸齋子の石卑御認ニ相成候。夕かた、私帰り候。

\*石卑(石碑)

(十二月) 廿二日

全紙二枚墨梅、墨竹認ル。夕かた、江州主水子来られ候。此時、父さまも一寸寄られ候て、同道して帰られ候。

(十二月) 廿三日

私、朝より姉参殿いたし候。昼飯戴候て、九条殿え参り、稽古いたし候。夕飯して二条え帰り候。此時、川勝来り候。此時、父さま、かた木原より帰り懸寄られ、暫して帰殿致され候。夜、大坂行の文認ル。

\*かた木はら(檜原)

(十二月) 廿四日

朝より全紙淡彩ニテ秋の花類、春の花類一枚認、落歛して宮原え持参いたし候。此日、母

さま、昼後参殿致され一宿。此日、兵部子来り候。大坂辻氏え忌中見舞出ス。

\*落款(落款)

(十二月) 廿五日

半切三枚、墨梅、彩色玉堂富貴、外富貴の棠、西京阿弥陀寺方ノ也。又宮原紹介の扇子二本認ル。此日、大坂井上、楚山、かん気見舞出ス。

\*かん気(寒気)

(十二月) 廿六日

朝、姉小路様え上り、昼後九条殿え上り、稽古済て、夕飯して、又姉御殿え帰り候。此日朝より御所建春御門外ニテ御覽所御普請、夜分もかゝり候て、一日ニ相立上、外に堂上方の御覽所も相立、中々夜分にきくしき事也。此夜、御殿え御廻文、明日四ツ時より調練御坐候よし也。私事、此夜一宿。

\*にきくしき(賑々しき)

(十二月) 廿七日 晴。

昼時より漸調練始り候。薩長也。実に見事の事也。此朝、父さま、民部、兵部子、伏見迄三条様御迎ひに行、昼後帰られ候。此時、五卿、御所え御参内也。実にく大せい御供、御警衛の人々也。誠にく上もなきうれしき事也。いつの事かと五年か間相まち申居り候处、漸に御帰洛に相成、安心くいたし候。右調練も夕方ニ相済候。私事ハ七ツ時後帰り候。

\*五年か(五年が) \*まち(待ち)

(十二月) 廿八日 雨中。

朝より宅掃事いたし候。夕方よりおにしめ物認ル。

\*掃事(掃除) \*おにしめ(お煮染) \*認ル(拵ル)

(十二月) 廿九日

何やらこてくくらし候。七ツ時より姉御殿え上り候。此夜、四ツ時ヨリかちんつき、夜通し。

(十二月) 三十日

焼相済候。夫ヨリ母さまと同道にて宅え帰り候、夜、雪降一寸斗積ル。